

こえさわ
越沢自治会

所在地：新潟県村上市

代表：石割 治

- サル被害が深刻化したことから、電気柵の設置やわなによる捕獲活動を開始。鳥獣対策を農業者個人の問題ではなく「集落全体の課題」として捉え、専門家の助言を受けながら住民全員で取り組む体制を構築。
- 多面的機能支払交付金及び村上市有害鳥獣被害防止対策協議会事業費等を活用し、農地・水路・道路等の維持管理や環境整備、生き物調査、獣害対策を組織的に実施。
- 集落とともに取組を進めるため、村上市地域おこし協力隊員が参画。任期終了後も、鳥獣対策及び集落環境維持活動を支える「獣害対策集落支援員」として活動。

【主な取組】

○ 集落環境診断の実践

- 平成28年度からサル及びクマ対策として、令和元年度からはイノシシ対策も加え、集落環境診断を継続的に実施し、専門家の助言を得ながら、集落環境の把握と対策の方向性を検討。
- 外部専門機関の協力のもと作成した「越沢集落全域の痕跡調査地図」を活用して、捕獲活動重点地域の設定やわな設置箇所の検討など、実践的な対策を実施。

○ 集落住民による電気柵の設置・撤去

- 平成25年度からサル対策として電気柵の設置に着手し、令和3年度からはイノシシ対策用の柵も導入。令和5年度までに集落内の耕作地ほぼ全域に設置。
- 電気柵については、積雪による損壊を防ぐため、毎年11月末から12月にかけて集落住民が協力して撤去し、翌年3月末から4月に再設置。

○ 地域内連携による安全かつ効率的な捕獲体制の構築

- 見回り効率と捕獲後の運搬を考慮し、わなを設置し、捕獲者及び協力者へ情報共有することで、作業負担を軽減。箱わなを移設する際は、地域住民の協力の下で実施。
- 捕獲情報について、専用グループチャットにより共有することで、捕獲個体の運搬支援や、解体作業を円滑に実施。大きな個体が捕獲された際は、越沢消防団にも協力を求めるなどの地域内連携により、安全かつ効率的な捕獲体制を実現。

○ ICT長距離無線式捕獲パトロールシステムによるわな管理の効率化

- ICT長距離無線式捕獲パトロールシステムを導入し、見回りが困難な場所に設置された箱わなについて、遠隔での作動確認が可能となり、見回り作業の軽減や効率化に大きく貢献。
- 見回り時にクマと遭遇する危険があったことから、捕獲者の安全確保にも寄与。



集落環境診断の実施



地域住民協力による捕獲活動



電気柵の設置

【活動の成果】

耕作面積の維持（多面的機能支払交付金協定農用地） 2,309a（H28）→ 2,405a（R7）